

中部国際空港の機能強化 (完全24時間化)に関する要望書



平成26年11月

中部国際空港二本目滑走路建設促進期成同盟会

中部国際空港の機能強化（完全 24 時間化）の実現について

中部国際空港は、開港以来、成田国際空港、関西国際空港と並ぶ国際拠点空港として、我が国の航空輸送の発展の一翼を担っており、国内外の人・モノの交流に大きく貢献してきました。

国におかれては、直面する人口減少社会に歯止めをかけ、首都圏への一極集中の弊害を是正していくこと、それに並行して地方の創生を進めていくことを国土づくりの重要な課題として掲げておられます。これらに対応するためには、首都圏に負けない定住圏を作ることが必要であり、中部圏、特に東海3県は「モノづくり」を基本としながら、地域の特性を活かし、首都圏に負けない医療・教育・観光基盤の整備を目指しております。

とりわけ、観光分野においては、2020年のオリンピック・パラリンピック東京大会の開催に向け、国が訪日外国人2,000万人の高みを目指す中、中部圏としても、こうした流れを的確に捉え、航空需要の拡大・航空ネットワークの充実を図ることで、訪日外国人200万人を目指してまいります。

そのため、インバウンドの拡大に向け、エアポートセールスや昇龍道プロジェクトの推進、必要な調査等を行うとともに、訪日外国人の受入の拡大に向けたLCCへの対応としてのターミナル機能の強化、訪日外国人への様々な情報提供サービスの充実、さらには、国とも連携・協力し、出入国手続の迅速化・円滑化等に取り組みます。

また、この地域は、我が国工業出荷額の約20%を占めており、日本のモノづくりの中核として産業、経済の発展を力強く牽引しております。中部国際空港の海上空港という特性を活かし、この地域の潜在貨物需要を確実に取り込むことで、航空貨物取扱量年間30万トンを目指してまいります。

そのため、引き続き貨物便の増便・新規就航の働きかけ、中部圏の強みである航空関連部品等の貨物需要の取込み、利用者ニーズを的確に踏まえた集荷・保管機能の強化等に取り組みます。

さらに、リニア中央新幹線の全線開通による巨大都市圏の誕生という大きなインパクトの活用や国の中枢機能の分担等を推進するため、我が国の国際ゲートウェイの一翼を担う中部国際空港の二本目滑走路（完全24時間化）を始めとする機能強化の実現が是非とも不可欠であります。

このため、地元自治体・経済界、中部国際空港株式会社が、国とも連携・協力し、訪日外国人の取込等を始めとする需要拡大の取組を進めてまいります。

国におかれましても、中部国際空港の二本目滑走路（完全24時間化）を始めとする機能強化の実現に向けて、次の各項目について特別のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

- 1 中部圏において、訪日外国人2,000万人をできる限り取り込み、また、我が国の中枢機能を分担していく、将来のあるべき姿を見据え、国が主体となって必要な調査検討を行うこと。
- 2 ビジット・ジャパン地方連携事業等インバウンド旅客の増加に向けた施策を始めとする航空需要拡大の取組を一層推進すること。
- 3 空港利用者の利便性向上のため、道路・鉄道等アクセスの充実に取り組むこと。

平成26年11月

中部国際空港二本目滑走路建設促進期成同盟会

会 長	愛知県知事	大村 秀章
副会長	岐阜県知事	古田 肇
副会長	三重県知事	鈴木 英敬
副会長	名古屋市長	河村 たかし
副会長	名古屋商工会議所会頭	岡谷 篤一
副会長	一般社団法人中部経済連合会会長	三田 敏雄
参 与	中部国際空港株式会社代表取締役社長	川上 博